

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(小66) 長崎市立(外海黒崎小)学校

1 教育目標

校訓「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」の具現化をとおして、社会を生き抜く力を身につけた子どもを育成する。
○めざす子ども像 「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」
・「じぶんから」＝進んで学ぶ姿 ・「みんなと」＝思いやる姿 ・「いっしょうけんめい」＝やりぬく姿

2 学校経営方針

日本国憲法、教育基本法、関係諸法、長崎県及び長崎市の教育方針に基づき、本校教育課程の達成を目指し、学校・家庭・地域の協働による「社会に開かれた教育課程」推進のための取組をとおして、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成に取り組む。

3 重点目標

- 1 豊かな心を暮らしに活かす子どもの育成 (G1-4)
- 2 確かな学力を身につけ発揮できる子どもの育成 (G1-1)
- 3 心身ともに健やかな子どもの育成 (G1-2)
- 4 家庭、地域との信頼の構築 (G1-3)

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	100	93	100	学校経営に関する肯定的評価は昨年度並み。「学校の雰囲気」については児童・保護者で微減。また、「教育目標」については児童で増加したものの、保護者で微減。その一方、「業務の改善」が教職員で100%を達成。さらに、改善を進めてできる時間的なゆとりを教職員が児童と向き合う機会の充実に活かすことにより、児童・保護者の満足度をより高めることが期待される。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	93	95	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	76	98	92	「生活・生徒指導」の3項目で、児童の肯定的評価が昨年度よりも増加した一方で、保護者の肯定的評価が微減。学校ですべてでも、家庭や地域ではできなくなっている児童もいると思われる。学校・家庭・地域による共通理解と共通実践の具体について講じる必要がある。 昨年度に引き続き、「いじめ防止」「人権教育」「特別支援教育」の3項目において、児童・教職員の肯定的評価が100%を達成したことは、本校が一人一人を大切にしながら教育活動を営んできた成果である。ただ、保護者の評価が2項目で微減している要因として、学校の対応不足が挙げられる。より迅速・正確・丁寧な対応を意識し、児童の変化や成長が具体的に伝わるようにする必要がある。
		挨拶をよくしている	93	95	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	93	100	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	98	90	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	100	98	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	100	100	100	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98	100	100	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	100	93	100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	100	100	100	4項目で、児童・保護者のいずれかの評価に微減が見られた。ICTを活用したり、児童自身で考えを深めたりするような学習をより充実させていきたい。「キャリア教育」については、地域人材や体験活動を生かした学習を仕組むだけでなく、児童に生き方を深く考えさせるようにしたい。 「家庭学習」について、児童・教職員の評価が増加。こまめな確認や声掛けが効果を上げたと考ええる。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	98	93	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	98	95	100	
	キ ャ リ ア 教 育	将来の自立に向けて適切に指導している	100	93	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	95			
	I C T 教 育	ICTを効果的に活用してわかりやすい授業を行っている	95	98	100	

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	98	100	全項目において、児童の肯定的評価が改善され、教職員の評価も100%維持を達成。好ましい生活習慣や健康への意識を醸成することができた。特に「体力向上」については、児童への取組だけでなく、保護者も巻き込んだ企画を実施したことで、大幅に改善した。 「保健・衛生」「基本的生活習慣」について、保護者の評価が微減。児童が学校で指導されたことを家庭で十分に実践できていないことが考えられる。引き続き家庭との連携を強め、改善を図る。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	88	93	100	
		体力向上に努めている	95	98	100	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	100	98	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	98	100	100	2項目で児童・保護者のいずれかに評価の増加があった。「情報提供」については、HPで配信している学級通信を掲示したり、tetoru等での周知連絡の頻度を増やしたりしたことが成果につながった。「PTA・地域との連携」については、今年度コミュニティ・スクールを発足したことで、保護者・地域の方の協力をいただく活動を多く仕組むことができたことが理由であろう。 「安全管理」について、児童の評価が微減。昨年度よりも集団下校とそれに伴う全体指導の機会が減ったことが原因と考えた。安全について定期的に指導する機会を設けた。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	98	100	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	98	100	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	100	100	100	「教育環境」における肯定的評価は、すべてにおいて100%を達成。地域・保護者・児童と共に環境整備活動(育友会行事)を行ったことが成果につながった。 「職場環境」については、働き方改革をさらに進め、日課変更等で、教職員が業務に注力できるようになったと考えられる。今後もさらに改善に努めたい。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○昨年度に引き続き、ほとんどの項目で肯定的評価が90%を超えた。評価が減少した項目についても、「微減」の範囲であり、本校の学校経営については成果を感じていただいているととらえている。今年度発足させたコミュニティ・スクールが、学校経営の様々な面でよい影響を与えていると考えられるので、次年度以降もさらに生かしていきたい。特に「教育環境」において、地域・保護者・児童が一体となって環境整備を行うことができた。次年度以降は、児童数・世帯数・職員数が減少することが予想されるため、今までの取組を抜本的に見直し、地域や保護者の教育活動への参画を促すことで、よりよい環境の維持に努めたい。

○「確かな学力」については、肯定的な評価が高いものの、昨年度より微減している項目が多い。児童の将来につながる学力向上・キャリア教育の部分で、より質を高めていく必要がある。「できた・分かったと感じる授業」「自己の生き方について考えを深める学び」を実現させるために、「書く・話す・話し合う」力の育成をさらに強化していく。

○児童の肯定的評価が80%に届かなかった項目が「ルールやマナーを身につけている」、90%に届かなかった項目が「早寝・早起き・朝ごはんが身につけている」であるが、昨年度に比べると改善傾向にある。児童自身が「できた」と実感できるように、他者の評価を提示したり、自身の伸びを見える化したりしたことで、自信をもって前向きに取り組むことができるようになってきたと考えた。さらに自身で目標をもって取り組むことができるよう、意欲化を図りたい。

6 学校関係者評価

○「あ・は・は運動」の「あ」について、礼儀正しい児童が育っていると感じる。児童が道路を横断する際、止まった車両に対してお辞儀をしている姿をよく見かけ、気持ちがよい。また、児童は地域住民に対して、目をしっかりと見て挨拶しており、先生方の指導が行き渡っていると感じる。

○児童の登校時、横断歩道を渡りきるまで保護者が側で見守っており、安全に気を配っている様子がうかがえた。

○学校評価にもあるように、今年度、コミュニティ・スクールを発足したことで、保護者と地域住民が関わる機会が多くなったと感じる。

○保護者の評価が、昨年度より微減している項目が増えており、気になる。我が子への期待が高すぎるのかもしれない。

○給食を残さないような指導をしていくことが必要。

○ICT活用が進んでいるが、児童が間違った使い方をしないよう、管理面の強化も図っていく必要がある。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学校運営協議会委員の皆様には、本校の教育活動、児童の成長について十分に評価をしていただいた。特に、学校以外の場面での児童・保護者の姿を評価いただいたことで、「地域とともに子ども育てる」という考え方を共通理解・共通実践できていると考える。このような地域からの評価を、児童・保護者・職員で共有することで、さらによりよい教育活動につなげていきたい。

○地域との連携において、学校と地域だけではなく、家庭と地域というつながりが見えるようになってきた。児童数・世帯数の減少により、育友会活動が難しくなっていくことが考えられるが、このつながりをさらに生かすことで、児童にとって安心・安全な教育環境を保証できるようにしていきたい。

○保護者の厳しめの評価について話題に上がったが、そのような厳しめの目に応えることができるよう、「児童の姿で伝わるか」という視点で常に教育活動を見直すことを全職員で共有したい。

○食育やICT活用教育などにおいて、自分事としてとらえ問題意識をもたせるような指導を充実させ、主体的に自己管理できる児童の育成を図る。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。